

ナルニア国物語

魔術師のおい

2

C・S・ルイス

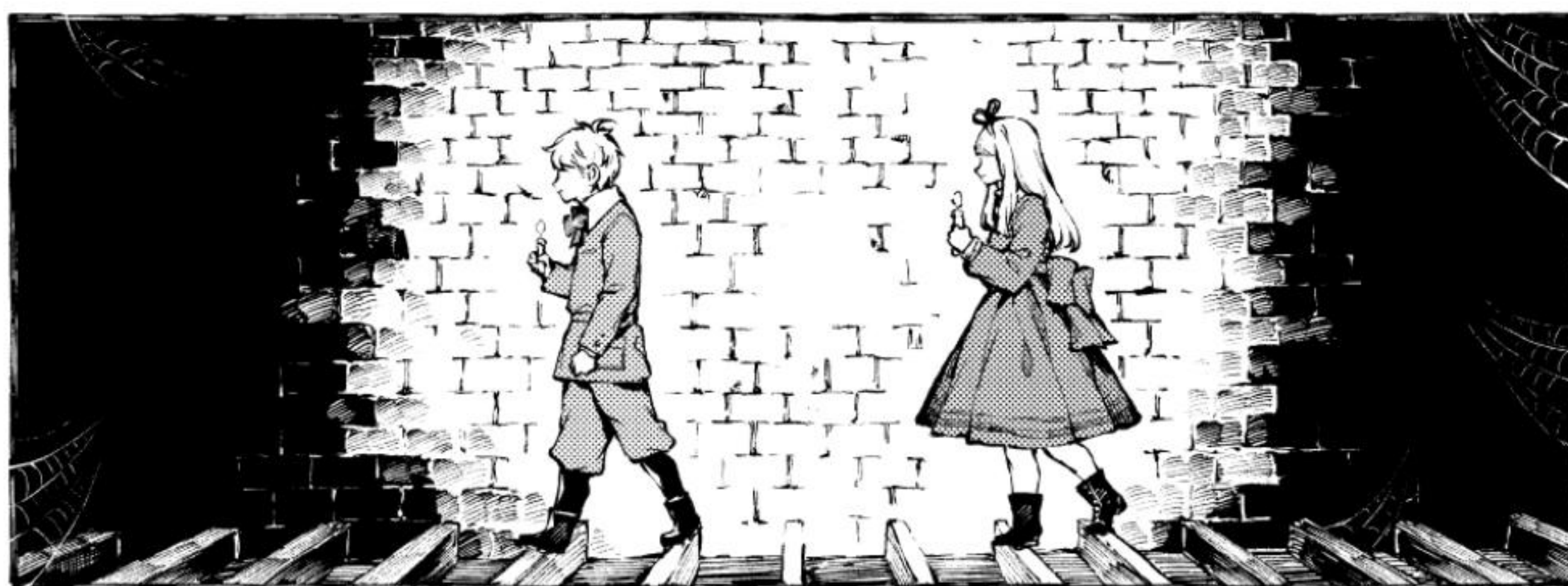
土屋京子・訳

玉樹庵・画

(光文社古典新訳文庫刊)

第2話 ドアをまちがえた!(後編)

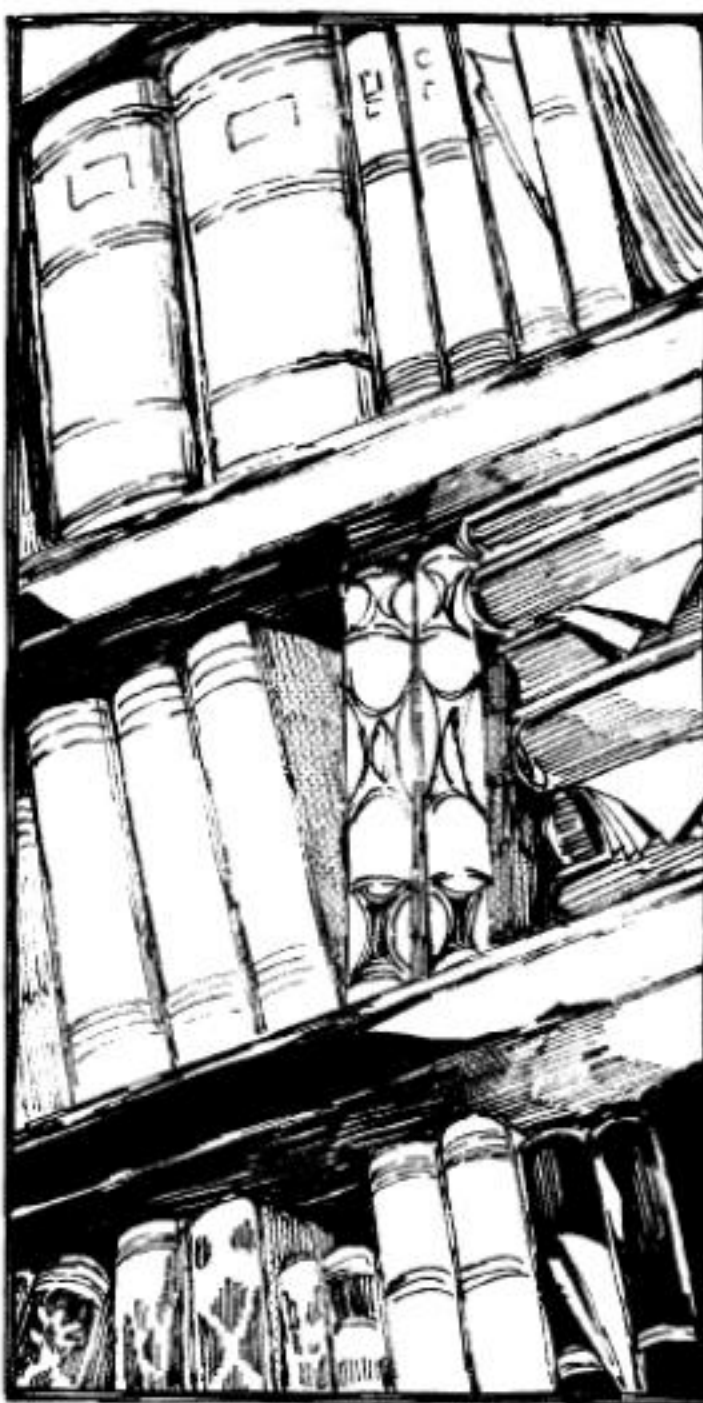
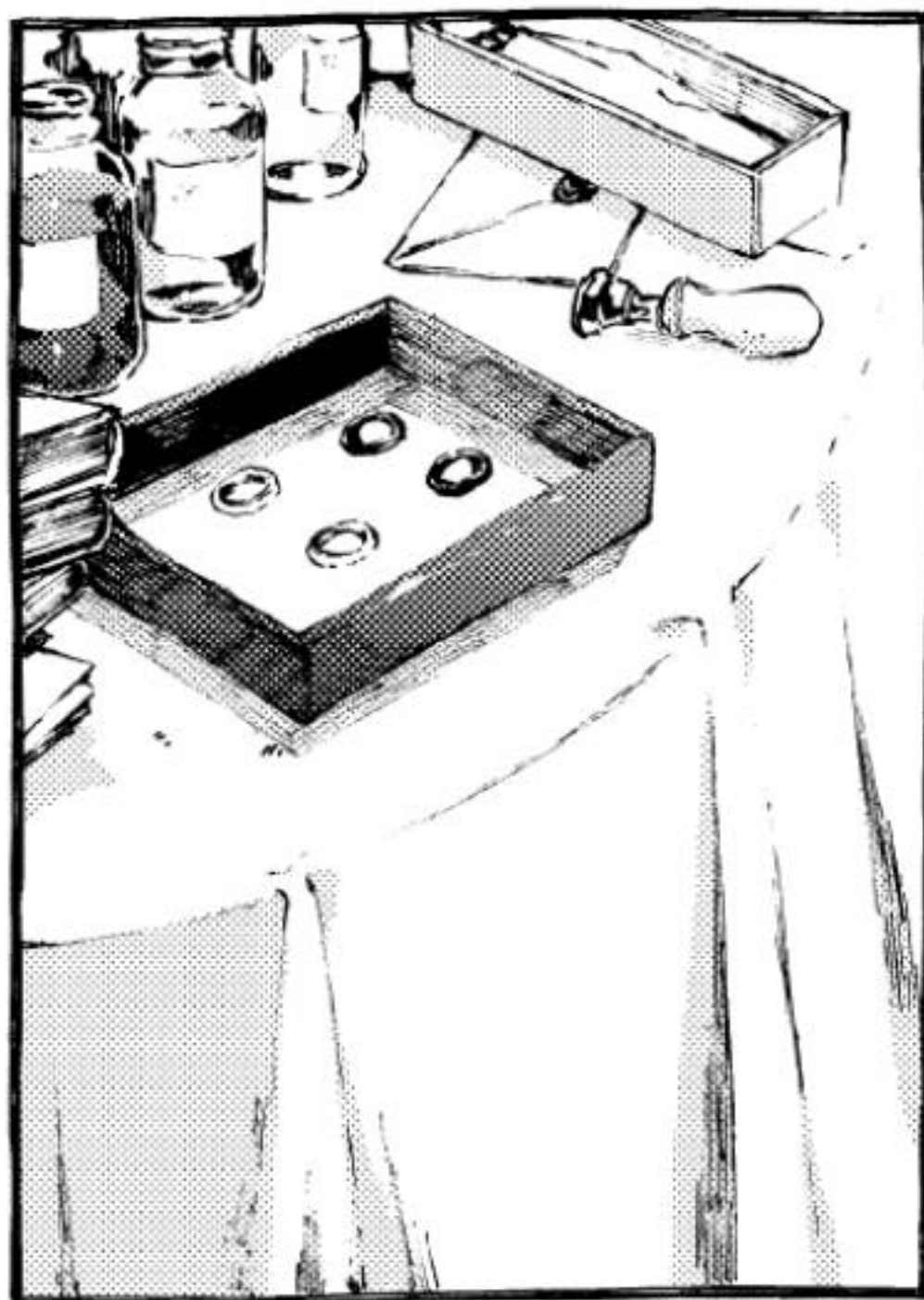




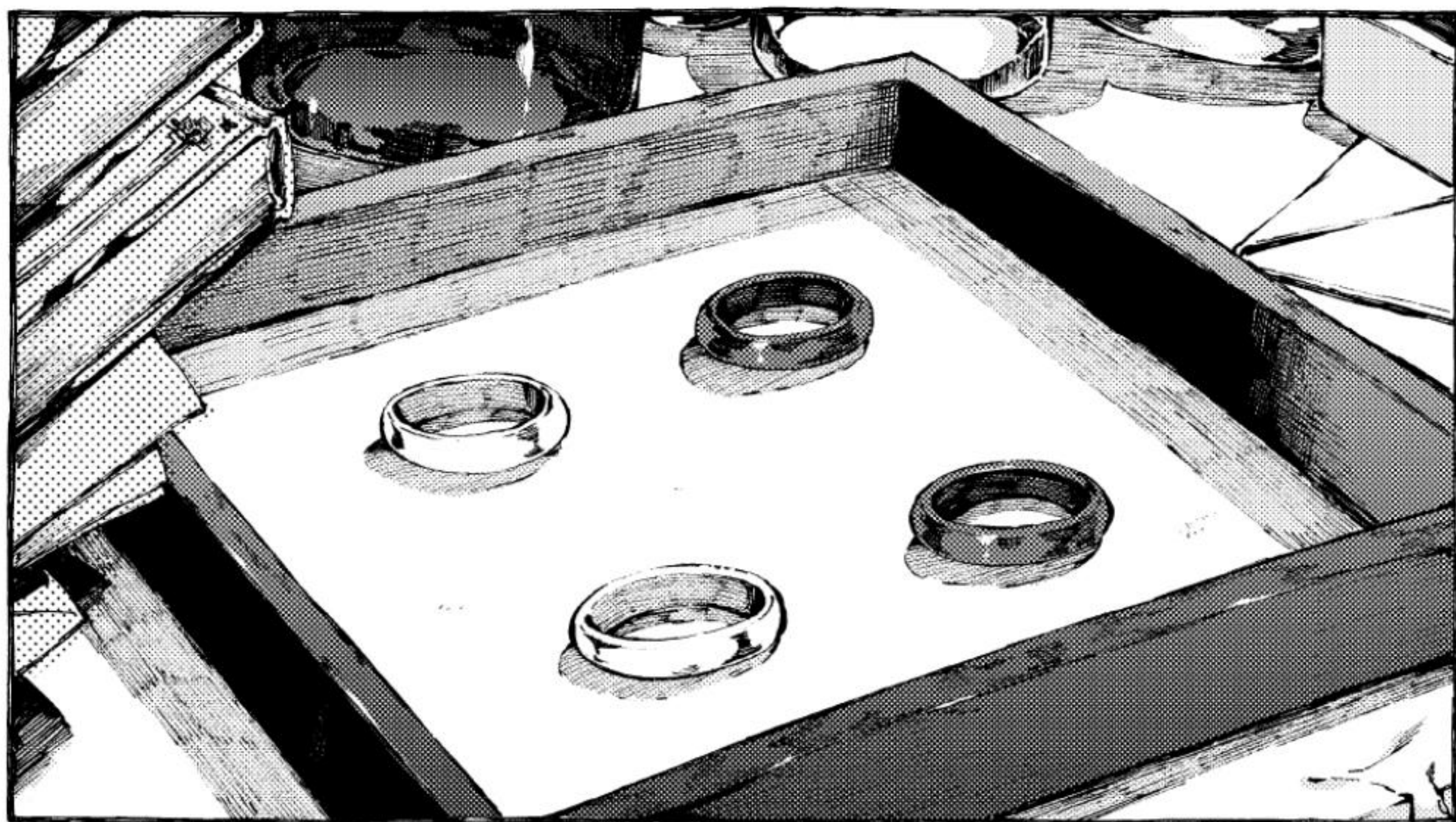










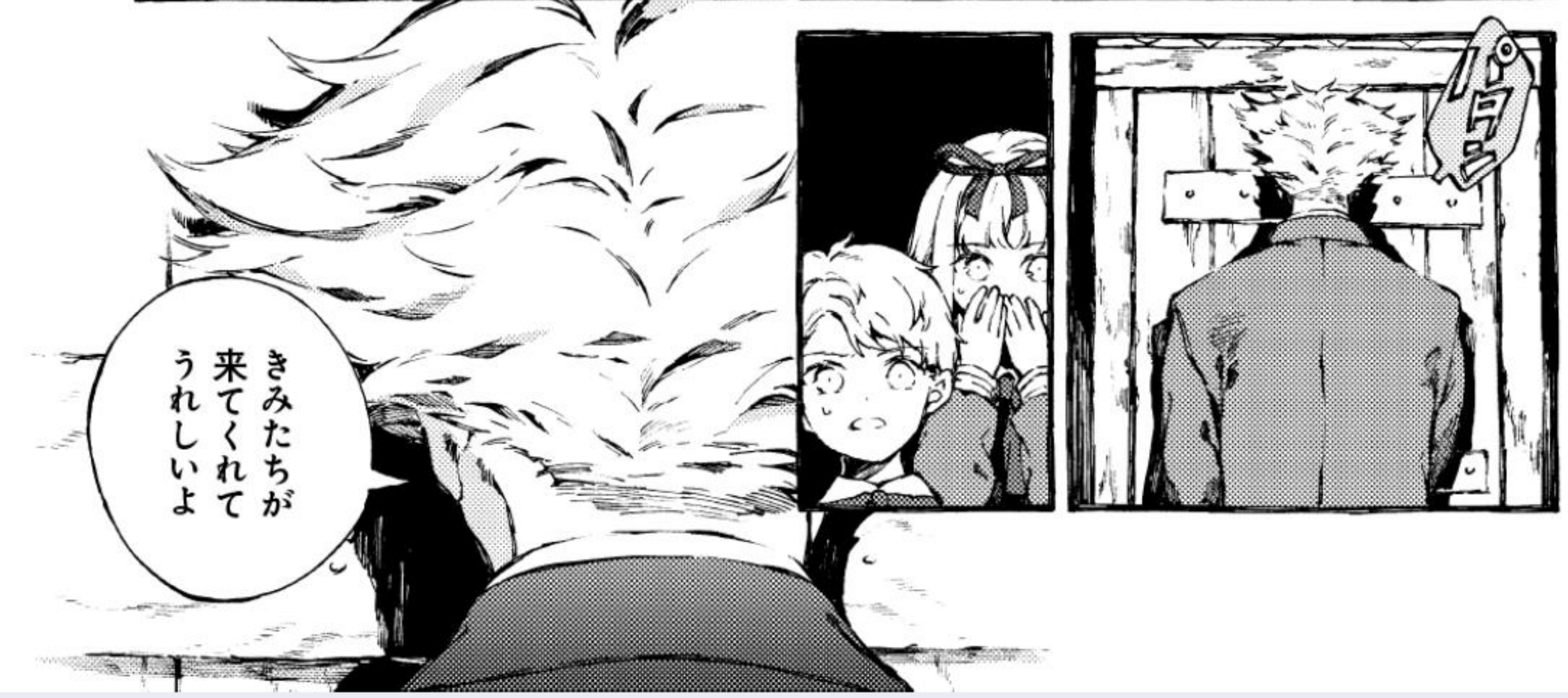














…すみませんが
ケタリーさん

もうすぐ
お昼ごはんの
時間なので

わたし
帰らなくちゃ
ならないんです



ここから出して
いただけませんか？



すぐには
無理だね



ちようど
子どもが二人
ほしかった
ところなんだ

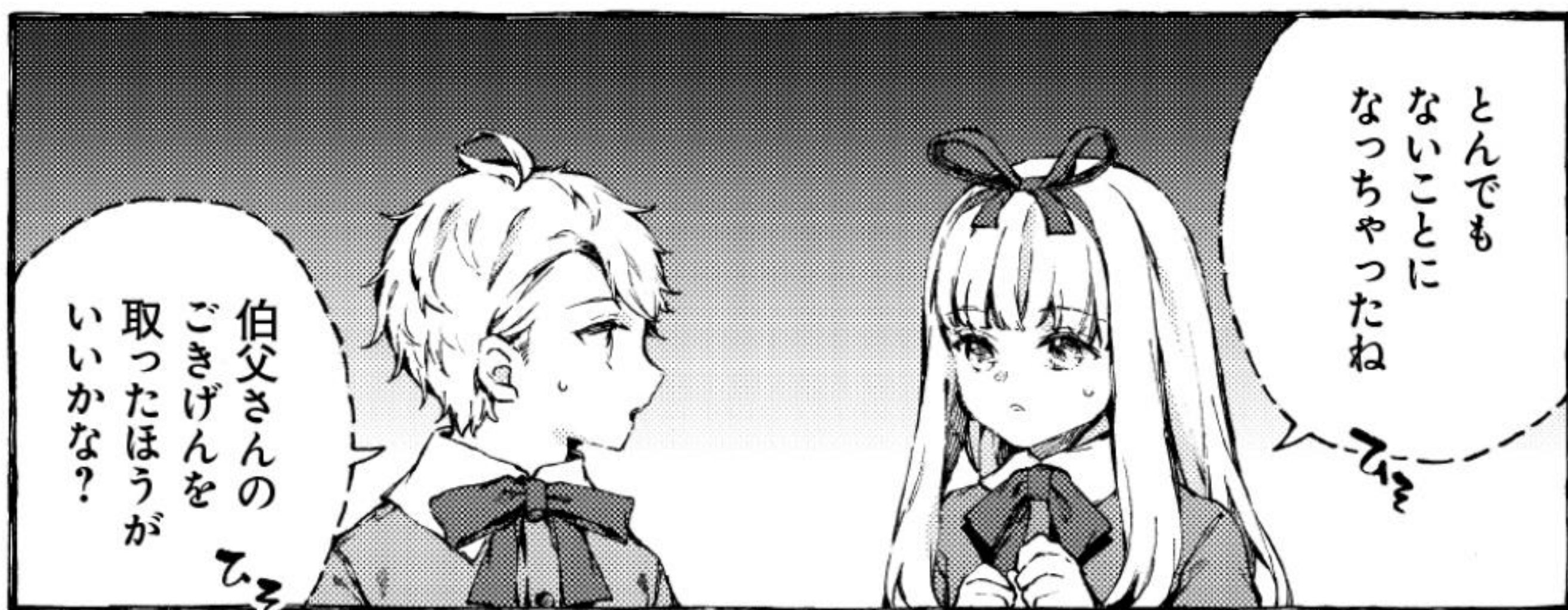






困ります？





行かなくちや
ならんと言うのなら
そうするしかないな

きみたちのような
若い人が
わたしのような
老いぼれと
話をしたって

おもしろくも
何とも
ないだろう
からね

わたしが
ときどき
どんなに
わびしい
気分になるか

きみたちには
わからない
だろう…

…しかし
そんなことは
どうでもいい

昼ごはんは
行きなさい

行く前に
プレゼントを
させてほしい

ただし

こんな
むさくるしい書齋に
女の子がやってきて
くれるなんて

めったに
あることでは
ないからね

とくに
失礼ながら
あなたのような
かわいらしい
お嬢ちゃんはね

……..
このおじさん

頭がどうか
してるというほど
変でもないかも…

お嬢ちゃん

指輪は
好きでは
ないかな？

その黄色いのや
緑色の指輪の
ことですか？

とっても
すてきだと
思います！

緑色のは
だめなんだよ

緑色のは
さしあげられ
ないんだが

黄色の指輪なら
どれでもよろこんで
プレゼントしますよ

愛をこめて

こっちへ
来て
指にはめて
ごらん





ポリー!

馬鹿なことを
するな!

さわっっちゃ
だめだ!!



